



*trio  
aimois*

*START  
LINE*

# START LINE

trio aimois

## Disk 1

### 2つの間奏曲

*Deux Interludes*

作曲：J. イベール  
*Jacques Ibert*

#### 1. I. アンダンテ・エスプレッシーヴォ

*Andante espressivo*

#### 2. II. アレグロ・ヴィーヴォ

*Allegro vivo*

#### 3. 古代のメダル

*Médailles Antiques*

作曲：ゴーパール  
*Philippe Gaubert*

#### コンツェルティーノ

*Concertino*

作曲：シュタム  
*Hans-André Stamm*

#### 4. 第1楽章：アレグレット・モデラート

*I. Allegretto Moderato*

#### 5. 第2楽章：アダージョ

*II. Adagio*

#### 6. 第3楽章：アレグロ

*III. Final Allegro*

### 三重奏曲

*Trio Op.119*

作曲：クーラウ  
*Friedrich Kuhlau*

#### 7. 第1楽章：アレグロ

*I. Allegro*

#### 8. 第2楽章：アンダンテ

*II. Andante*

#### 9. 第3楽章：アレグロ

*III. Allegro*

<ボーナス・トラック>

#### 10. アヴェ・マリア

*Ave Maria*

作曲：A. ピアソラ 編曲：山口景子  
*Astor Piazzolla*

# START LINE

trio aimois

## Disk 2

### 1. Avenue ~それぞれの道~

作曲：クノー

### 2. 魔法の言葉

作曲：金沢あきな

### 3. miracle!! カノン

作曲：ハッヘルベル

### 4. 夏の小さな恋人

作曲：金沢あきな

### 5. エリーゼのルージュ

作曲：ベートーヴェン

### 6. START LINE ~目覚めよと呼ぶ声聞こえ~

作曲：J.S. バッハ

編曲：金沢あきな



## 知らなかった画家の絵のように

ぼくは美術が大好きで、よく絵を見に行く。海外の大きな美術館からやってくる名画の展覧会だけではなく、町中や旅先でふと見かけた画廊や小さな展覧会にも、時間がある限りふらっと入って行くことにしている。

今まで名前も知らなかった画家の絵の中に、丹念で、心安らぐ美しさ、面白さを湛えているものを見つけたことがあって、とても楽しく、共感する。自分に近い時代の日本の画家であれば、身近な親しみと尊敬も覚える。

このアルバムを聞き始めてすぐに、ぼくにはそういう、小さな美術館での静かな時間と同じ幸せが感じられた。ムリをして大曲・名曲に挑むのではなく、さほど有名ではないが優しい作品への等身大の共感から選ばれ、丁寧に演奏・録音された音楽は、クーラウやイベルなどクラシックのサロン音楽が、驚くほどポップス・インストゥルメンタルに近づいていたのだという新しい発見とともに、心地よくぼくの身体を駆け抜けて行った。聞き進むうちに、奏者のそれぞれが持つ深い美しい音やフレージングに、クラシックのプロとして本格的な勉強、実績を重ねている人だけが持つ真実味が潜んでいることも解ってくる。そのことは、このアルバムをただのBGMとはひと味違った佳品としているのだ。

茂木大輔

(NHK交響楽団首席オーボエ奏者、指揮者、エッセイスト)



イベール：2つの間奏曲 ←.....✿

演奏会の始まりに合う、短いが印象的な作品。ふわりとした優しさを持ちながらもどこか物哀しさ漂う第1番、ふと想像の森に迷い込んでしまい、細かい雨の降る中、何かを探しながら駆け抜けていくような第2番。この作品を演奏すると、幻想的なショートフィルムを見終わったかのような、まるで時間が奪われてしまったかのようななんとも言えない感覚に陥ります。演奏中はもちろん、演奏後に残る余韻や空気感をも、聴いてくださる方が楽しんでいただけたら…と演奏者に思わせてしまう、不思議な魅力溢れる間奏曲。trio aimois を結成する前に縁あって集い、初めて音を出してみた思い出深い作品です。

(金沢昭奈)

ゴーベール：古代のメダル ←.....✿

淡い色調で描かれた水彩画のような見惚れる、聴き惚れる小品。この曲は2部構成となっており、各部に標題がつけられています。第1部「泉の妖精たち」では湧き出る泉の輝きや水しぶき、流れ、そこにいる美しい水の精たちが描写され、第2部「ダンス」では水の精の話し声や戯れている様子、魅了されるほどの美しさ、追いかけても追いかけても手に入らない妖精の幻想的な部分が描かれています。

近代フランスにおいて活躍した名フルーティスト、教育者、作曲家、指揮者であるフィリップ・ゴーベール(1879-1941)によって、1920年に作曲されました。(妹尾寛子)

## シュタム：コンツェルティーノ

ハンス・アンドレ・シュタム (Hans-André Stamm, 1958-) はドイツの作曲家、オルガン奏者。自身が演奏家でありながら、作曲も手がける。オルガン作品のみならず、管弦楽、室内楽作品も多く生み出している。小さな協奏曲を意味する《コンツェルティーノ》は、3つの短い楽章から成り、エリザベス・ティザックに捧げられている。

### 第1楽章 Allegro

16部音符を用いた古典的なメロディーを、ヴァイオリン→フルート→ピアノがバトンリレーの様に掛け合う。教会音楽を思わせる響きで楽章は終止する。

### 第2楽章 Andante

ピアノのゆったりとした5拍子にのせて旋律が物哀しげに、懐かしげに歌われる。

### 第3楽章 Allegro

フルートの軽やかな3連音符で始まり、小川を流れるかの様に曲は進んでいく。「すうっ」と何かをすくい上げたかの様に曲は締めくくられる。(中瀬梨予)

## クーラウ：三重奏曲

フリードリヒ・クーラウ (1786-1832) は一般的に「ピアノのソナチネ」の作曲家として知られていますが、フルートのための作品も数多く作曲し、ベートーヴェンと親交があったことや彼と音楽様式が似ていることから「フルートのベートーヴェン」とも呼ばれています。

クーラウ最晩年の作品で、全3楽章からなります。形式は古典的ですが、「ただただ純粋に美しい」と思わせる旋律からはロマンの香りを感じさせられます。

元々はフルート2本とピアノのために書かれた三重奏曲ですが、様々な編成に編曲されており、この美しい曲を3人で演奏できることに幸せを感じます。(妹尾寛子)

## 1. Avenue ～それぞれの道～ ❀

原曲はバッハ＝グノーのアヴェマリアで、2012年にヴァイオリンとピアノとドラムのために編曲されたものです。「夢に向かう時の力強い信念や、大切な仲間がそれぞれの道を進んでいく。だけど原点は同じ。」という思いが込められています。

Q. 今年みんなの「それぞれの道」とは？

あきな：どんな時も前向きに！

りよ：夢への猛進

ひろこ：流れに身を任せて、波に乗る!!!

## 2. 魔法の言葉 ❀

大好きな母に感謝の気持ちを込めて書かれた曲。繰り返し出てくるサビのドレミファソに「ありがとう」の五文字を吹き込み、この曲を耳にするみなさんにやさしくあたたかな気持ちになってもらいたいという思いが込められています。

Q. ドレミファソに込めてみたいみんなにとっての魔法の言葉とは？

り：♪空を見よう～♪感謝だったり、前向きな気持ちになるこの曲に当てはめてみたい言葉です。

ひ：やっぱりこれは「ありがとう」かな。愛する息子を思って吹きました。

## 3. miracle !! カノン ❀

原曲はパッヘルベルのカノンです。美しいメロディを残しながらも、原曲にはないリズムの変化を使って、全体を通してびっくり箱のようなドキドキが詰まったアレンジになっています。ドラムでも4Beat、8Beat、16Beatのリズムを融合させて楽曲を盛り上げてくれています。

Q. このアレンジで特に好きな場所は？

あ：ラスト

り：各パートのソロ部分

ひ：各ソロに入る前の tutti 部分！レッレッレっのどこ！



#### 4. 夏の小さな恋人



どんな時も大切に思ってくれるかけがえのない人へ贈った曲です。

Q. この曲のイメージは？

り：母性。お母さんが赤ちゃんを抱っこしてる感じ。

ひ：昔の写真を見て、懐かしむ感じ。

#### 5. エリーゼのルージュ



原曲はベートーヴェンのエリーゼのためにです。サンバ調のリズムあり、ロックの雰囲気あり、変拍子ありのオリジナリティ溢れるアレンジです。冒頭の長いカデンツや、中間部のそれぞれのジャズ風のアドリブなど、聞き所満載です！

Q. 演奏が難しかった場所、特にこだわった部分は？

あ：変拍子の部分

り：次のとっかかりになる部分。みんなで盛り上がってたのに、急に大注目された時の緊張感のような（笑）

ひ：8分の7拍子のところ☆

#### 6. START LINE ～目覚めよと呼ぶ声聞こえ～



いつでも遅くなんてない、気づいた（目覚めた）その時こそがその人にとってのスタートライン。何度でもきれる、人生のスタートライン。タイトル「目覚めよと呼ぶ声聞こえ」、この言葉にインスピレーションを受け、アレンジされました。

Q. この曲のカラーは？

あ：白

り：水色

ひ：眩い光が見えるからゴールド



私がエモアの皆さんの音を聴くきっかけは、このCDに打楽器奏者として参加されている三柁沢信さんとのご縁です。そして聴いた印象です。

クラシック CD では……

クラシックと言うより、さわやか、シンプル、かつ印象派的などこかホッとする癒し感が得られました。

お薦めはイバールとピアソラ。

ポップス CD では……

これもポップスというより、クラシックが基盤でやはり爽やかに癒やされます。聴きやすいクラシック風 という感じ。お薦めは『目覚めよと呼ぶ声が聞こえ』

音楽や芸術を押し売りするのではなく、ジャンルの壁を越えて色々な楽しみ方が出来るCDかと思います。

一般社団法人  
日本作編曲家協会 理事  
作編曲家 指揮者  
ボブ佐久間



## *trio aimois* (トリオ・エモワ)

---

2012年に妹尾寛子(フルート)、中瀬梨予(ヴァイオリン)、金沢昭奈(ピアノ)によって結成されたクラシック三重奏グループ。結成時より、メンバーそれぞれが日本・ドイツ・フランスと別々の場所を拠点とする。それぞれの場所で個々の技術に磨きをかけ、毎年夏に集結し、音楽への情熱を共有し合い生まれたエモワ独自のハーモニー。2015年夏、ヴァイオリンの中瀬梨予が拠点を日本に移す。メンバーのうち2人が日本に拠点を置く事で、更なるアンサンブルの高みを目指し、活動の場の拡大をはかる。2012年より毎年、宗次ホールのランチタイムコンサートに出演。2013年にはHITOMIホールにて初リサイタルを行い、好評を得る。新たなジャンルへの試みとして、ドラマー三柁沢信さんを迎え、2014年にライブハウス・ピアチェーレにてpop aimoisを開催。好評につき2015年に「和カフェ たらそ」にて、pop aimois vol.2を開催。2016年2月26日にプロレスタン・レーベルよりCDデビュー。デビューアルバム「START LINE」。

## *trio aimois* の由来

---

trois aimois(エモワ)は、フランス語の「aimer」という動詞と「trois(3つの、3人の)」という数詞を結んで作られた私たちのトリオの呼び名です。aimorには「好む、愛する、大切に思う」の意味があり、私達が共に音楽を作っていくときに一番大切にしていることとぴったり重なります。「こうした方が好き!」「この曲が好き!」「ここをもっと大切に奏でたい!」など…私たちのアンサンブルに対する愛はごく自然なものとして、いつでもどこでも溢れ出ています。現在拠点の違う国で音楽を学ぶ3人がずっと変わらずにいつまでも、共に音楽に向き合うときに感じる愛情や喜びを、そして私達の音楽を聴いてくださるお客様との時間を大切にしたい、という思いからaimoisが生まれました。

## 妹尾寛子 Hiroko Senoo (フルート)



愛知県立芸術大学音楽学部器楽科管打楽器専攻卒業。同大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。在学中、定期演奏会や同大学主催『室内楽の楽しみ』等に出演。第14回日本フルートコンヴェンションコンクール・ソロ部門入選。第11回大阪国際音楽コンクール・アンサンブル部門入選。第30回読売中部新人演奏会、名古屋笛の会フレッシュコンサート、同大学院生によるコンサート『最優秀修了生による競演』、同大同窓会主催第7回新人演奏会、あつたモーニングコンサート、宗次ホール・ランチタイム名曲コンサート等に出演。2011年、作曲家マイケルシェリー氏との縁によりアメリカ・インディアナポリスにあるバトラー大学にてソロリサイタルを開催。第13回浜松国際管楽器アカデミーにてフィリップ・ピエルロ氏のマスタークラスを受講。パウル・マイゼン氏、エマニュエル・パコ氏の公開レッスンを受講。これまでに伊藤直子、故中野富雄、村田四郎、寺本義明の各氏に師事。現在、音楽教室講師の他、ソロをはじめ室内楽、オーケストラ等で東海地方を中心に活動を行っている。

オフィシャルブログ「せのおひろこのブログ」<http://ameblo.jp/hrk-s-flute/>

## 中瀬梨予 Riyo Nakase (ヴァイオリン)



蒲田市出身。名古屋市立菊里高等学校音楽科、愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻弦楽器専攻卒業。同大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。在学時に、中部フィルハーモニー交響楽団への入団が決まり、2009～2013年同楽団の第1ヴァイオリン奏者として在籍する。2010年、第11回大阪国際音楽コンクール・アンサンブル部門、入選。更なる研鑽のため2011年9月に渡独し、ドレスデン・カール・マリア・フォン・ウェーバー国立音楽大学大学院に入学。2014年、同大学院にて、マスターの称号を審査員満場一致で取得。これまでに、ヴァイオリンを松野友子、北垣紀子、福本泰之、デヴィット・ノーラン、吉川朝子、イゴール・マリノフスキー、島原早恵の各氏に、古楽音楽をレミー・ルドガー、ジョン・ホロウエイの各氏に師事。Staatsoperette Dresden ドレスデン喜歌劇場契約団員、Badisches Staatstheater Karlsruhe カールスルーエ・バーデン州立歌劇場エキストラ団員、Musik Schule Zebra 講師を経て、4年間のドイツ生活に終止符を打ち、2015年7月に完全帰国。現在、尾張旭市在住。ソロをはじめ室内楽やオーケストラの演奏活動、後進の指導を積極的に行っている。

## 金沢昭奈 Akina Kanazawa (ピアノ)



愛知県立芸術大学ピアノ科首席卒業、同大学大学院ピアノ研究科修了。2010年リサイタルデビュー後フランスへ渡る。ジュネビリエ地方音楽院室内楽科およびスコラ・カントールム音楽院上級課程にて審査員満場一致の一等賞を受賞。フランス国際音楽コンクールにて第二位、シャトー国際ピアノコンクールにて入賞および日仏友好特別賞など、国際コンクールにて多くの受賞を果たす。パリ在住。クラシックピアノをテオドール・パラスキヴェスコ、ピアノ連弾をジャン＝マルク・ルイサダ、ジャズピアノ、作曲、アレンジをヴァレリー・ヴェンツァキヌの各氏に師事し、更なる研鑽を積んでいる。フランスと日本を中心に演奏活動を行っている。これまでに2枚のCDをリリース。オフィシャルブログ「フランス留学日記」<http://ameblo.jp/pipopakina/>

## 三柰沢 信 Nobu Minesawa (ドラム&パーカッション)



愛知県岡崎市在住 11月3日生まれ。学生時代はBand活動と吹奏楽に明け暮れながら Popular Music Contest や Midland Contest で Best Drummer 賞など数多くの賞を受賞。後に中島俊夫氏に師事。全国各地の博覧会やイベントの演奏や Prefecture Musical Band の日本選抜の Drummer の代表としてイタリア、フランス、オランダ公演での演奏経験を持つ。現在の演奏活動は多岐わたり、JAZZ、ポピュラー、クラシック等全てのジャンルにおいて、ドラムとパーカッションを同時に使って不思議な調和やバランスを生み出す演奏方法「Magician of Drums&Percussion」の第一人者として年間100回以上の演奏活動を行っている。

三柰沢信 公式ホームページ <http://minesawanobu.com>





Guillaume CONNAN

# TECHNO-PARADE

DES MUSIQUES, DES INSTRUMENTS, DES ÉCRÉANS

PARADIS ÉDITIONS

START LINE

*trio amois*

FLCP-21047-8



# START LINE

*trio amois*



START LINE

*trio amois*

FLCP-21047-8